

有田ダム

有田ダムでは、ダム建設で作られた湖を一周する遊歩道を散策しながら、エメラルドグリーン of 湖面に季節の植物が映る様子を楽しむことができる。湖には正式な名前は付いていないが、湖面が緑がかった色合いをしていることから、地元では「秘色の湖（ひそくのうみ）」の名で知られている。周囲の木々の葉が緑から赤、オレンジ、そして最後には茶へと色を変えるとき、森の色の移り変わりも湖面に映し出される。遊歩道沿いには、著名な彫刻家である古賀忠雄（こがただお）（1903～1979）が制作した乙女のブロンズ像がある。有田ダム展望台から見る湖の眺めは地元の人々に人気で、春の桜が満開の時や秋の紅葉が見頃の時には、特に多くの人々が訪れる。

有田ダムは、1953年に九州北部で大規模な水害が起きたことを受けて数多く作られたダムのひとつである。それまでも有田川水系が氾濫したことはあったが、流域には住宅が密集していたため、今後の氾濫を防ぐ目的で川岸を拡張することはできなかった。そこで、治水や利水、河川環境の保護、町の給水の安定化を目的に多目的ダムが作られたのである。